

全油販連会員の会社紹介

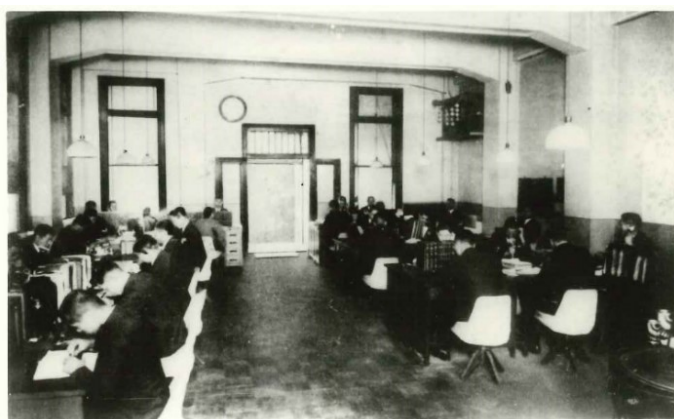
株式会社タテノコーポレーション

タテノコーポレーションは、1884年（明治17年）、東京・日本橋小網町の日本橋川の畔にて、「食」「エネルギー」という「生活必需品」の卸商として創業し、本年で140周年を迎えます。

創業当時は食用油脂・ランプ用オイルや小麦粉を取り扱う「油問屋」「小麦粉卸」でしたが、大正～昭和初頭には、モータリゼーション時代の到来を踏まえた石油の取扱いや、食用油脂や小麦粉の製造・使用過程で生じる油粕・ふすま（＝肥飼料）の取扱いを開始し、現在は、①食用油脂、小麦粉を中心とした「食品原材料」「食品全般」、②肥料・飼料その他の「農業資材」、③石油その他の「エネルギー関連製品」を取り扱っています。



明治時代の日本橋川の様子



戦前のワーキング風景

創業以来、「挑戦」(Challenge)・「連携」(Co-operation)・「信頼」(Confidence) という「3つのC」の重んじてきた伝統を保ちつつ、近年は、これに「創造力」(Creativity)を加えることで、新たな価値を創り出し、お客様や地域・社会に貢献する企業であり続けることを目指しています。

例えば、これまでの問屋・卸業からもう一步を踏み出す「挑戦」として、海外からオーガニック食品・農産物やスペルト・アインコーン等の「古代小麦」などの特徴ある食品・農産物を輸入し始めたり、消費者ニーズの多様化や油脂・小麦粉等の特性を踏まえた食品の企画開発・販売を行なったりしています。



旧社屋の外観



契約農場でのキャベツ収穫体験
（「うまいもん甲子園」より）

また、「食」「農」の部門の「連携」を更に推し進め、農業部門のお客先である農業者の方々が生産した米・大豆・野菜・肉・卵等の農畜産物を食品事業者の方々に繋ぐ取組、食品部門と農業部門それぞれのお客先である食品事業者と農業者の間で農産物（＝食材）の契約栽培をアレンジし、食品事業者と農業者の双方が中長期的に「Win-Win」になる関係を築き上げるような取組も行なっています。最近では、企業の社会的貢献が重要視される中、SDGsの取組の一環として、食品工場で生じた食品残渣や端材を「価値ある商材」（肥飼料）にして農業者に繋ぎ、更にこれらを用いて生産された農畜産物を食品工場に繋ぐ取組も始めています。

このほか、当社では、全国の高校生が参加する「うまいもん甲子園」への協賛を続けてきており、地域の高校生が地元の食材に親しみながら食品づくりに取り組む中で、将来、地元の「食」「農」を背負って立つ人材になる一助となれればと考えているところです。

また、地元との関わりについても大切にしており、本社のある日本橋小網町で近年はパワースポットとして有名な『小網神社』の氏子総代を弊社歴代社長が務めさせていただくなど、少しでも地域に貢献できるよう取り組んでおります。



小網神社大祭

当社は、2代目館野栄吉が全油販連の初代会長を務めさせていただいて以来、全国の油脂業界・関連業界の皆様にご大変お世話になってきており、需要と供給の両面で大きな変動期にある今だからこそ、「健康的な国民生活に不可欠な油脂の安定供給」「新たなニーズに対応した油脂の提案・普及」という全油販連の考えにも沿いながら、今後も事業環境の変化に対応した取組を続けていければと考えております。